



1999年、既に「天命を知る」年が近くなった人民文学出版社は自社の50年の事業に正しい評価を行った。「新中国の文学出版事業はここから始まった」この評価を社会に公開する時、それは一人一人の人民文学出版社同人の胸中に深く刻み込まれた。1951年3月に創業した人民文学出版社は、50年来、終始、人民のために奉仕する、社会主義のために奉仕するという方針を堅持し、「百花齊放、百家争鳴」(科学上での異なった学派の自由な論争、芸術の形式をこぞって発展させる)の方針を貫き、文学出版事業を繁栄させ、国家の文化建設を強化することを自らの責任とし、図書出版の系統的・多層的構造を重んじ、古今内外の優秀な文学成果を努めて全面的に反映させてきた。

人民文学出版社の出版物は古今内外の文学のエッセンスを集めている。『魯迅全集』、『暴風驟雨』(周立波、1946)、『保衛延安』(杜鵬程、1954)、『林海雪原』(曲波、1957)、『青春之歌』(楊沫、1958)、『紅樓夢』、『西遊記』、『三国演義』、『水滸伝』、『シェイクスピア全集』、『バルザック全集』、『静かなドン』...新中国の読者はその中をさまよい歩き、精巧であり、また美しい精神の糧から滋養を受け、成長してきた。新中国成立当初、『らくだのシャンツ』(老舍)、『家』(巴金)などの現代作家の代表作品の出版が呼んだ大衆文学ブームは、新中国の文化の発展の歴史にいつまでも記載されるだろう。改革開放の初期、『子夜』(茅盾)などの内外の名作の重版は、読者が長蛇の列を作り、先を争って買う盛況を呼び、出版界の思想解放の前触れとなった。

50年に渡って、人民文学出版社は8,000種余りの図書を出版し、7億冊余りを発行した。中国当代文学作品、現代文学史上比較的大きな影響を与えた文学作品、優秀な古典作品、外国文学古典の名

著と現代・当代の代表的な作品の翻訳及び文芸理論、高等学校(大学)の文系テキスト、人文科学の著作等、文



学出版のそれぞれの領域を内包している。その内、中国の人民革命闘争及び建設事業の歴史過程を描いた当代文学作品が4,000部余り、殆どの当代作家の代表作がその中に含まれている。中国古典文学の整理に関する仕事では、『詩経』から新中国成立前のすべての業績ある作家作品まで、歴史の塵を払い、光と色彩が目にもあざやかにきらきら輝いている。幾世代の努力を経て、この方面の図書出版は既に一応の目鼻がつき、1,000種余りに達している。これらの出版物から、中国の優秀な文化伝統の大まかな輪郭を窺い知ることができる。人民文学出版社が広く切り開いた各国の古典名著、現代・当代の作家の名作及び各種の代表的な作品の出版は、既に多種多様で盛観を呈している。70余りの国と地域の重要作家の作品2,000種余りを出版し、中国の読者に世界文学の豊富かつ多彩であることを知らしめ、新文学の発展に有益な参考となった。50年間に渡り、人民文学出版社が全力を尽くして構築した古今、中国、外国文学の図書体系は既に一応の成果を収めた。

中国の作家、翻訳家は人民文学出版社を自分を育ててくれた揺りかごのように思っている。なぜなら、彼らの多くの作品が人民文学出版社の編集者達の育成の下、土から芽を出し、枝葉を茂らせたからである。茅盾文学賞授賞作品『白鹿原』の作者、陳忠実は6年かかって書き上げた原稿を編集者に渡した時、口許まで出て、言い出せなかった言葉があった。「私は命さえも君たちに預けた。」2001年3月28日、人民文学出版社は北京で50周年の祝賀行事を挙行了。(『光明日報』書評週刊、2001年3月29日、署名荘建)

かげやま たつや(助教授・中国文学)